

第7回 小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

■日 時：令和5年12月15日（金）15:00～17:20

■場 所：小石原川ダム管理所 1 階説明ホール

■出席者：（委 員）古賀部会長、馬場委員、広渡委員、松井委員、真鍋委員、山根委員
（事務局）5名
（オブザーバー）朝倉市、東峰村

■配布資料：

- ・議事次第
- ・資料-1 出席者名簿
- ・資料-2 小石原川ダムモニタリング部会の設置について
- ・資料-3 小石原川ダムモニタリング部会 規約
- ・資料-4 小石原川ダムモニタリング部会の公開方法について
- ・資料-5 第6回小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨
- ・資料-6 令和4年～令和5年度小石原川ダムモニタリング調査結果等について

■審議内容等：

1. 令和4年～令和5年モニタリング調査結果

モニタリング調査結果のうち、第6回部会で報告できていない令和4年秋季から令和5年夏季もしくは秋季までの調査結果を事務局より説明した。調査結果について、各委員からの意見は次のとおり。

- 気候変動を踏まえると毎年のように大規模出水が発生するおそれがあり、堆砂除去が必要になり得るため、堆砂状況については引き続き把握してもらいたい。堆砂除去に際しては、ダム下流への土砂還元も一つの方策として考え得る。
- コア山では思ったより樹木が生長している。5～10年後は特に常緑樹がより生長して景観が改善されるのではないかな。
- ビオトープのエコスタックは、さらに追加してもらいたい。追加する際には、山からの連続性も考慮して集中して置くことが望ましい。
なお、エコスタックの材料は遠方から持ってくるのではなく、近隣のクヌギ林が利用できると良い。クヌギの切り株が萌芽更新し樹液が出ればオオムラサキ、クワガタ等がみられるようになり、子供達の自然観察などにも利用できる。
- 土壌が成立していればエノキをはじめとした樹木が生育するため、ビオトープの土作りが必要である。オオムラサキが周辺のクヌギ林で餌を得て、ビオトープに生育するエノキ

で繁殖するような環境が望ましい。

- ビオトープの池から山までの間のカエル類が往復する経路については、帯状に掘り返して石があまり入っていない土と入れ替えた方が良い。
- ビオトープの動植物種は増加したが、新たに見られるようになった種、脱落した種を整理し、それらの結果を踏まえて動植物相が回復傾向かどうか検討してもらいたい。
- 獣害防止柵はコア山の植生回復に効果を発揮していると考えられる一方で、柵にシカが絡まるなどのリスクもある。獣害防止柵の将来的な取り扱いについて、樹木の生長具合に応じた撤去も含めて検討しておいたほうが良い。

2. クマタカ保全検討会の報告について

クマタカ保全検討会の開催状況、審議内容を報告した。

3. 事後調査報告書（供用開始後）の公表について

委員の指導・助言を得つつ実施してきた、保全対象植物7種の環境保全措置に対する事後調査結果について、環境影響評価に基づく『事後調査報告書（供用開始後）』としてとりまとめ、ホームページにて公表したことを報告した。

4. フォローアップ調査の方針について

令和6年度からモニタリング調査からフォローアップ調査へ移行すること、令和6年度に調査結果を評価・総括し事後評価報告書としてとりまとめること、今後のフォローアップ調査計画について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

当該内容は、九州地方整備局ダム等管理フォローアップ委員会に報告する。

以　上